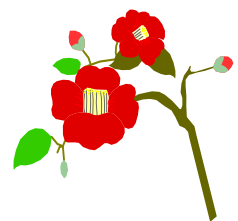


# 学校保健委員会だより

令和2年12月23日  
城ノ内中等教育学校・高等学校



今年度の学校保健委員会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、書面での開催となりました。今年度の学校保健・教育相談、及び生徒の健康課題等についての報告、また、それらについて学校医・PTA代表・教職員からいただいたご質問・ご意見について報告します。

## 今年度の学校保健に関する報告

### 1. 定期健康診断結果

○身長は男子が全学年県平均を上回っていた。女子は1,3,4,5年が県平均を上回っていた。

○中等は学年が上がるにつれ肥満度の高い生徒が多い傾向がみられ、数名が軽度から中等度肥満に移行している。高校は6年男子以外は県・全国平均より低かったが、男女共に肥満傾向児の出現率が昨年度より約1パーセント増加傾向にあり、休業中の影響が伺える。

○中等は裸眼・矯正視力とも1.0未満の生徒が70%以上、高校では約35%と、中高ともに適切な矯正が行えていない生徒の割合が高いため、受診を促す必要がある。

○未処置歯の割合は、県・全国平均と比較して低く全般的に良好である。中等は歯垢・歯肉の状態において経過観察が必要である割合が高く、日常の口腔ケアに関する保健指導の必要がある。高校では歯と合わせて歯肉炎においても受診の必要性がある。

### 2. 保健室利用状況

○来室者総数は、昨年度と比較して、中等で約2.4倍、高校で約1.3倍に増加しており、新型コロナウイルスによる臨時休業が大きく影響していると思われる。

○「内科的」症状の来室者数は、昨年度と比較すると中等で約3.8倍、高校で約1.5～5.7倍となっており、学校再開後の増加率が高かった。夏休みが短縮され、自粛生活で体力が低下していることに加え、暑さが厳しい中での登校となり「頭痛」「腹痛」「熱中症様症状」等の体調不良が多くみられた。

○相談を含む「その他」の来室者数は昨年度より増加しており、新型コロナウイルス感染症及び臨時休業による精神面への影響が伺え、スクールカウンセラーと連携を図り、相談体制の強化を図った。

### 3. 教育相談の状況

11月13日現在、延べ184件(昨年度127件)の相談があった。臨時休業中、ICTを活用したスクールカウンセラーによる講話や、相談機関の紹介を行った。学校再開後の6～7月は、新型コロナウイルス感染症による生徒の精神面への影響を考慮し、週1回のカウンセリングを週2回に増やし、相談体制を強化した。

### 4. 学校保健年間計画について

新型コロナウイルス感染症の流行により、計画の変更や一部中止もあったが、定期健康診断、環境衛生検査、職員を対象とした緊急時対応研修(アレルギー・熱中症)、健康力アップ30日作戦等、様々な保健行事を計画的に実施した。また、生徒保健委員会では、文化祭で「with コロナ」をテーマに中高合同の保健展を実施した。

## 5. 新型コロナウイルス感染症における対策について

学校生活における新型コロナウイルス感染症対策として、主に以下のような対策を実施しました。(一部抜粋)徹底することが困難な現状もありますが、今後も円滑な学校生活と感染症対策の調和を図りながら、持続可能な感染症対策について検討を重ね、一人一人が意識して取り組んでいくことが重要です。

(1) 感染源を絶つための方策

登校前の検温、保健室入室時の検温・消毒、出席停止の措置等

(2) 感染経路を絶つための方策

登校時入室前後の手洗い・消毒、給食時の消毒・密接回避、授業中の換気、授業中使用する共用物の消毒、休み時間の人との距離の確保、清掃時の手をよく触れる部分の消毒・洗浄、ゴミの処理方法の変更、集会時の3密回避、城ノ内祭での3密回避と消毒の徹底、保健委員会活動での消毒作業等

(3) 情報提供・啓発

スマートライフ宣言、とくしまコロナお知らせシステム、各種たよりによる情報提供・啓発、臨時休業中のICTの活用、生徒保健委員会での啓発活動等

## 学校医・PTA代表者・教職員等からの意見

<中等>

○学校医：呼吸が激しくなる部活動や合唱等においてはdistanceと換気が重要。(マスクは難しい)

○教員：カウンセラーの来校回数の増加を希望する。

○教員：感染症対策に取り組んでいるが、生徒たちの気が緩んでいるように感じる。

○PTA：歯の大切さの教示、歯みがきの推進を今一度徹底指導して欲しい。勉強のしすぎなのか視力が低い生徒が多いことが気になる。新型コロナウイルス感染症ではクラスターが発生しないよう願う。

○PTA：保健室の利用者が多いことに驚いた。生徒の心のケアは勉強と同様に大事。よろしく願いいたします。

○学校医：インジンによるうがいの時間をとってみてはどうでしょうか？

○学校医：正しい知識・予防指導等が過剰な反応を減らすことにもつながるのでは。

<高校>

○学校医：相談による保健室の利用者の増加が見られるが、冬以降受験シーズンには精神面で不安定になる生徒も増えると思われるため、相談体制の強化が必要。

○PTA：全生徒がこの対策を忠実に実行できれば、城ノ内にコロナが入ってこないのではと思います。受験もあるため、各生徒及び保護者も含め十分注意を払い、城ノ内にコロナが入らないよう取り組んで欲しい。

○教員：体育の授業でボールを投げたり、キャッチできない生徒が多く、突き指をする生徒が多い。自分の体を上手く使えるよう授業内容を検討する必要があると感じた。

○学校薬剤師：これからコロナだけでなく、インフルエンザ等その他の感染症が流行する時期となるため、教室の換気と加湿は重要な対策。可能な範囲で、努力をしていただきたい。

○学校医：感染症対策において、若者は重症化する可能性が低く、マスク・手洗い等現在の対策をしっかり取り組むことで、校内での感染は防止できると思います。家庭内感染が多いため、放課後の行動及び家庭内での対策にも十分に気をつける必要があります。